

# ああでもないこおでもない「経済」談義

ながれ

浅利 美鈴 (あさり みすず / 京都大学大学院地球環境学 准教授)

これまで経済を語ることはほとんどなかったが、「循環経済」が注目を集めるようになって、私ですら循環とセットで「経済」という単語をよく使うようになった。それでも、経済については素人のままであるが、頂いたお題を、自分なりに考えてみた。

「経済」とは何か？辞書によってさまざまに表現されているが、とあるものに「人間の生活に必要な物を生産・分配・消費する行為についての、一切の社会的関係。」とあった。今後の在り方について、いろいろな議論ができそうである。

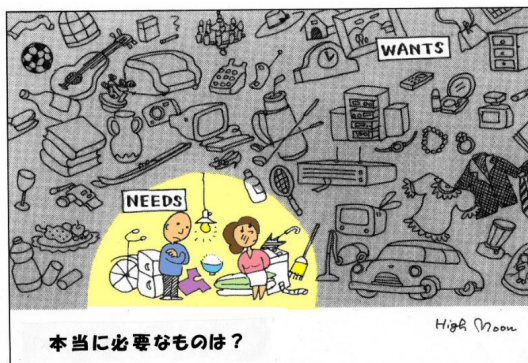
まず、「人間の生活に必要な物」について考える必要があるだろう。ハイムーン(高月)先生の漫画が投げかけるように、私たちは、この間、欲しいものを欲しいだけ購入し、物に囲まれて生活してきた。その中から、本当に必要なものを選んで暮らすスタイルに戻ることができるのか、ターニングポイントにある。物への執着心や消費量という点については、世代による違いが如実だと感じる。本当にざっくり、私の主観でまとめると、次のような感じだ。

◆戦時中や戦後の苦しい時代を知る人は、物が無い時代を経験しており、本当に生きていくために必要なものを知っている。逆に

物への執着が強い人もいる。

- ◆高度経済成長やバブル経済の中で価値観が出来上がってきた人には、「消費が美德」という風潮の影響を受け、いまだ引きずっている人もいる。しかし、時代の変遷や、東日本大震災、コロナ禍の混乱などを経て、疑問を感じ、必要なものを考え始めた人もいる。
- ◆物が行き渡った時代に生まれた若い世代は、全体に物への執着は少なく感じる。ただし、使い捨てへの罪悪感もゼロに等しく、物を軽視する側面があるとも言える。小中学校の教科書を見てみると「豊かさとは物やお金ではない」旨の記載(投げかけ)がある。

こうしてみると、若い世代が牽引する未来は、物の大切ささえ知ってもらえれば、前途有望に見える。しかし、そう簡単ではないようである。図1<sup>1)</sup>は、環境意識・購買行動に関する関心度合いを、年代別に示したものである。これによると、20-30代は無関心層と先進層との間で二極化していることがわかる。この背景にはいろいろなことが考えられるが、気になるのは経済格差の影響である。仮に、若い世代においては、お金持ちでなければ、環境負荷の低い買い物ができない／しないとするならば・・・



「経済とは何か？」の続きに戻る。「生産・分配・消費する行為についての、一切の社会的関係」・・・これを、誰一人取り残すことなく、かつ持続させることが、SDGsの目指すところなのだろう。しかし、裏を返せば、これが実現できていないからこそ、

SDGsが謳われているとも言える。ここで、先ほどの経済格差という論点に立ち戻る。世界に目を向けると、南北格差のみならず、格差拡大が各地で指摘されているところである。世界においては比較的格差が小さいとされる日本だが、それでも、一億総中流という時代からは、様相が変わってきた。子どもの貧困も進み、今は7人に1人の子どもが貧困状態にあるとされている。

このような中で、どのように、必要なものを生産・分配・消費するべきか？一つの方向性として、目に見える範囲における地域循環の重要性を挙げたい。現代社会においては、世界規模で物が生産・分配されており、私たちは日々、誰がどこで作ったのかもわからないまま、ただただ消費してしまっている。当然、誰に何が届いていて、届いていないのか（すなわち貧困状態にあるのか）も、わからぬままである。自給率が低迷する日本においては、その傾向が顕著とも言える。昔は、何か大きな物を買うときには、家族会議があったものだが、それも消え失せた。この生産・消費・分配を、再び目に見えるものにしていく必要があるのではないか？物理的に目に見える範囲（地域）で、人間の生活（命）に必

要なもの、例えば生命維持に必要な食料やエネルギー、日用品は、持続可能な形で供給・循環させる。まさに、地域循環共生圏（ローカルSDGs）の実現とも言える。

この夏休み、一つの試みをしている学生さんが身近にいる。「少しずつ現代文明から離れて、人間としての自立を目指したい」という。これはかなり極端な例であるが、若い世代には、与えられるばかりの暮らしに、違和感や不安を覚える人も少なくないようである。しかし、ゼロから食べ物を作って生きていけるようなスキルや環境を持つ者は多くない。他方、シニア世代には、まだまだ自然と共生して生きていく術や知恵をもった方がいる。多少強引にでも、これらの世代間交流を含め、地域循環に根差した経済を模索できないものか。遅まきながら、私自身、京都市の北部山間地域に位置する京北（けいほく）にて京都里山SDGsラボ「ことす」を拠点に、活動を始めている。試行錯誤の日々である。是非、この「ああでもないこおでもない」に、ご助言・ご参加頂きたい。

参考文献  
 1) ポストンコンサルティンググループサステナブルな社会の実現に関する消費者意識調査(2021年12月調査)



図1 環境意識・購買行動に関する関心度合いのセグメント（世代別）<sup>1)</sup>